

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名：

岡山大学病院

部局長名：

前田 嘉信

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
・地域や国際社会で中核となって活躍する優れた医療人を養成するため、デジタル等を活用した教育・研修プログラムや社会人向け教育・研修プログラムの提供に取り組む。	(10-3)	● 地域や国際社会で中核となって活躍する優れた医療人の育成 岡山大学病院ではデジタル技術を活用した教育プログラムを多角的かつ包括的に実施した。既存の5プログラム(公開講座 おかやま病院経営「トラの穴」、CMA-Okayama医療人材育成プログラム、がんゲノム医療中核拠点病院岡山大学病院人材育成セミナー、岡山大学病院NSTオンライン勉強会、職員全体研修)の提供に加えて、新たに医療DX・AIに関するプログラムを開発し、「医療DX・AI セミナー」として提供した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
・橋渡し研究支援機関の認定維持と全学への機能拡充するとともに、従来の医療分野の橋渡し研究に加え、医療を中心とした異分野融合研究を推進し、中四国ネットワークを強固なものとし中四国アカデミアに拡充に取り組む。 ・次世代医療・異分野融合イノベーションの創出につながる臨床研究の推進のため、治験・先進医療・特定臨床研究について、ARO機能による研究推進と産学共創オープンイノベーションプラットフォームの安定的な運用に取り組む。	(8-2) (10-1)	● 橋渡し研究支援機関の認定維持と全学への機能拡充 中国・四国地方唯一の橋渡し研究支援拠点として、中国・四国地方を中心とした各アカデミアの研究シーズの掘り起こしと育成に関して公募を行い31件(うち学外11)を採択した。また、新たな取り組みとして、ステージアップを目指す研究者等向けのセミナーを開催し中四国アカデミア関係者より好評を得た。さらに、製薬企業合同研究公募説明会及び個別相談による企業とのマッチング等、臨床研究、薬事申請へのスムーズな移行の促進を図った。 異分野融合研究の推進について、本部と連携し、「医療・ヘルスケア領域での社会実装を見据えた異分野融合型シーズ開発チャレンジ事業」を実施し、5件を採択した。昨年度に支援した環境生命自然科学学域の先生のシーズが、大阪大学の異分野融合型研究開発推進支援事業に採択されるなど取り組みが進展している。 また、学長を議長とする「橋渡し研究支援拠点運営マネジメント会議」を年4回開催し、学長のガバナンスの下、拠点運営の推進を図った。併せて、R6年4月に研究推進機構が廃止・新設されることに伴い、文部科学省への拠点体制の変更申請手続きを進めている。 ● 次世代医療・異分野融合イノベーション創出につながる臨床研究推進 臨床研究の品質確保と不適合の是正のために、特定臨床研究管理委員会をもって、新医療研究開発センター臨床研究監理部を中心に臨床研究の年次点検及びフォローアップ点検を実施した。さらなる研究の推進のため、臨床研究サポート体制の拡充(リサーチクラーク配置)、研究者等のニーズやシーズの社会実装に向けたARO支援、オープンイノベーションプログラムの充実を図った。
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
・中核的医療拠点として、高難度手術やゲノム医療などの高度医療の提供を推進する。 ・デジタル田園健康特区事業として、先端的サービスの開発・構築に関する実証及び調査研究の展開、救急救命士の権限・役割の拡大による救急体制の充実、母子健康促進支援サービス並びにデータ連携基盤を介した分野間のデータ連携に取り組む。 ・聞こえのバリアフリー事業として、聴覚障害児支援中核機能モデル事業(厚生労働省)の推進、教育コンテンツの作成、補聴器技能者講習会開催、高齢者自動聴覚健診導入、災害時・緊急時支援手段の県内での導入試験などに取り組む。	(1-1) (1-1) (10-1)	● 中核的医療拠点として、高難度手術やゲノム医療など高度医療提供 第1期(H30年度～)、第2期(R2年度～)に引き続き、がんゲノム医療中核拠点病院の指定を受け(第3期:R5～R8年度)、中四国を中心に20施設を超える医療機関と連携してがんゲノム医療を推進した。併せて、全ゲノム解析プロジェクトへ参画し体制の整備を図った。 ● デジタル田園健康特区事業 大学病院内に「岡山大学病院デジタル田園健康プロジェクトチーム会議」を設置し病院事業提案の進捗確認を行った。また、「デジタル田園都市国家構想推進交付金Type3」の採択に向けて吉備中央町と共に提案を行った。「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の申請に際し、取組2の「規制改革」及び「新医療技術開発」事業運営に携わり、全学を巻き込む形で事業を進展させた。加えて、内閣府の実証調査として、遠隔採血・産前産後ケア・救急救命士の処置拡大に向けた方策へのアカデミアとしての介入、デジタル田園交付金事業における、中山間地区での遠隔診療の実装に向けた対応を行った。 ● 聞こえのバリアフリー事業 聴覚支援センターの取り組みが、障害者の生活向上のために行われている革新的な実践や政策に対し贈られるバリアフリーの国際賞「Zero Project Award 2024」のファイナリストに選出された。 成人・高齢者の取り組みとして、吉備中央町で自動聴覚検診と遠隔判定の導入、補聴器技能者・補聴機器会社・自治体等と協働で成人・高齢者や支援者に対しての教育講座、技能者スキルアップ研修を開催したほか、小児期・学齢期、就労期の取り組みとして、教育コンテンツの充実や就労状況調査・検証等を行った。また、災害時・緊急時サイレン振動変換アプリの導入、支援・救助要請システムの開発を推進した。

<p>④管理運営領域</p>	<p>関連する 中期計画の番号</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>・病院経営改善のため、収入増及びコスト削減の取組みを行うとともに、患者サービス向上と業務効率化を目的としてDX化を推進する。</p> <p>・女性教員割合向上方策として、病院ダイバーシティ推進センターを中心に女性が働きやすい職場づくり、キャリアサポート、離職防止など女性教員が働きやすい環境を整備する。</p> <p>・働き方改革への取組みとして、2024年4月から適用される医師の時間外労働規制を鑑み、システムの活用と安定的な運用による労働時間の把握を行い、当該規制に対応するため策定した医師労働時間短縮計画の推進に取り組む。</p> <p>・コンプライアンス向上及びハラスメント防止のための教育を徹底する。</p>	<p>(11-1) (その他)</p>	<p>●病院経営改善：コスト減の取組み、業務効率化を目的としたDX推進 経営改善のため、医薬品及び医療材料の価格交渉により費用の削減を図った。また、電気料について価格交渉による変更契約を締結し、7月以降の費用削減(△約0.3億円)を行うとともに、次年度以降の契約においては、複数年契約への移行・参加者事前確認公募広告の導入により、大幅な削減(△約3億円)を図った。さらに、経営戦略支援部の強化充実を図り増収策の検討の他、設備検討会を設置して適正な設備投資計画の策定に向けてのルール改定などの取組みを開始した。また、業務コンサルティング導入により外注検査業務委託費削減の取組みに着手した他、他医療機関とフォーミュラー推進協議会を設置して「医薬品の標準治療の確立」並びに「安定確保重点医薬品の運用」に関する情報共有を図り安定確保重点医薬品の共同価格交渉の取組みも開始している。加えて、エネルギーデータ解析による調査検討を行い入院棟西系統冷水水2次ポンプのチューニングを行い、1,093.5千円の削減を実現した。</p> <p>●女性教員割合向上のための女性教員が働きやすい環境整備 夜間保育範囲の拡大による希望者への受容基盤の形成を強化した。育休後の復職支援に向けた個別相談の拡充、男性育休取得推進による男女共同参画の推進を進めている。また職員・学生への相談支援によるウェルビーイング改善への課題を抽出した。リタイア後のセカンドキャリアでの人材活用のポテンシャル把握、非都市部への貢献に向けて、オンライン調査を行う準備を進めている。</p> <p>●働き方改革取組み 導入済みの勤怠管理システムは安定稼働しており、本学での勤務状況の把握に加えて兼業先での労働時間管理の精度も向上している。また、1月から勤怠管理システムの追加機能である統計分析ツールの共同開発(全国で5大学)に参加しており、多面的に医師の勤務状況を把握する仕組みづくりを推進している。これらの整備されたデータをもとに、「医師の働き方改革に関する労務諮問会議」を中心にさらなる推進に取り組む。</p> <p>●コンプライアンス向上及びハラスメント防止教育の徹底 全学で実施しているコンプライアンス研修等への参加に加えて、部局等独自の取組みとして、医療系キャンパスにおけるハラスメント防止等に関する研修会、病院全教職員及び医歯薬学臨床系教員を対象とした個人情報保護・情報セキュリティ研修会、病院医療技術部を対象としたコンプライアンス研修を実施し、教職員の教育を徹底した。 設備・備品の適切な管理体制の構築を目的とし、管理に必要となる諸手続きの徹底について改めて周知を行うとともに、各部署が保有する固定資産等の現物確認を実施し、確認結果に基づき、管理責任者に管理すべき固定資産等のリストを共有するとともに、管理担当者使用者の異動等の情報把握に努め、確実に後任者への引き継ぎや廃棄処分等の必要な手続きを遂行するよう見直しを図った。</p>
<p>⑤センター・機構等業務</p>	<p>関連する 中期計画の番号</p>	<p>センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>・地域中核病院の連携による良質な医療の持続可能な提供体制の構築のため、CMA-Okayamaを中心とする医療連携ネットワークを拡充し、ネットワークにおける人材育成と連携診療科の拡大による多施設共同の治験・臨床研究の機能強化を推進する。</p> <p>・特定機能病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院、医療法上の臨床研究中核病院、橋渡し研究支援機関としての機能を維持するとともに、病院機能のさらなる充実のための取組みを行う。</p>	<p>(10-2)</p>	<p>●地域中核病院の連携による良質な医療の持続可能な提供体制構築 参加施設として、新たに福山市民病院、福山医療センター及び津山中央病院の3施設を追加し(年度計画の評価指標の1施設追加を大きく上回る成果)、ホスピタル・ネットワークを拡大した。CMA-O治験ネットワークでの患者紹介の効果的な運用、DCT(分散型臨床試験)の導入検討等による治験推進体制の充実を図るとともに、人材育成コンテンツとして、ウェルビーイング(心身の幸福)の向上を意識したキャリアアップ及びライフアッププログラムを提供した。</p> <p>●病院機能のさらなる充実のための取組み 研究面では、医療法上の臨床研究中核病院及び橋渡し研究支援機関として各種承認要件をクリアするとともに立入検査・サイトビジット等を受審し、拠点機能を維持している。また、研究管理体制として、本年度9月に、新医療研究開発センターに臨床研究監理部を設置し、臨床研究の品質管理及び研究支援体制に関する点検など管理体制強化のための取組みを行っている。診療面では、社会ニーズに対応したセンターとして、今年度は、中央診療施設等では重症心不全センターを、院内措置として緩和ケアセンター、希少がんセンター及び小児・AYAがん総合センター(R6.4.1設置)を新設し、病院機能の充実を図った。 業務継続計画(BCP)に関して、内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンターが実施している分野横断的演習へ多職種チームを結成し参加し、実践型の訓練受講による対応力の向上を図った。 放射線治療装置更新に伴う、老朽化した放射線科各診療室等をリニューアルし機能改善した。(I期令和5年度、II期令和6年度完成)とともに、周産母子センター整備と総合周産期医療センター設立に伴う、入院棟4階改修(NICU/GCU/MFICU拡張)工事に着手した(I期令和6年度、II期令和7年度完成予定)。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。